

日時	2026年1月10日(土) 10:00 ~ 12:00 天候:晴
場所	湿地、2階交流スペース
講座・活動名	<b>湿地モニタリング調査 &amp; 観察園全樹木調査</b> 毎月第2土曜定例
参加者	18名(うち子ども3名) 構成: 講師2名、(環境局1名)、NTT西日本関西支店10名、エコボラ5名
講師名	鈴木真裕(大公大)、北川ちえこ* (エコボラの場合氏名に*印をつける)
内容	生き物調査、標本作製、データ入力、(報告書作成) 毎木調査準備
使用器材 資材・道具	(持参、借用等も含む) PC、大型モニタ、マイクロスコープ、調査用紙、たも網、金魚網、バケツ、バット、タッパ、スポイト、エチルアルコール、バイアル瓶、ピンセット
振り返り  エコボラ通信に 掲載することが あります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網入れの駆除のみ実施し、アメリカザリガニは32個体入った</li> <li>・アメリカザリガニの大きな個体はメスだった</li> <li>・ザリガニが減って、トンボのヤゴが増えているように思われる</li> <li>・NTT西日本の子どもたちも駆除に活躍した</li> <li>・湿地の隣の水田Bでは、特定外来生物アゾラ・クリスタータの近縁種か交雑種が出現していて、これが湿地でも繁茂し水面を覆うと、日射が入らなくなり、水生生物への影響の懸念があるため、要観察である(水鳥のヒレなどに付着し拡散する)</li> <li>・樹木調査では、水路対岸のサクラについて、No.85 ヤマザクラか No.88 ウワミズザクラかは、おそらくヤマザクラであると判断した</li> </ul>
事務局への 伝達事項 次回案内等	★引き続き、湿地ではアメリカザリガニの駆除を中心に行う 樹木調査は樹高測定を始める予定、ラベル作り直しのためラミネータを借りるかもしれない

スタッフ氏名	活動内容	参加者氏名	活動内容
芝崎美世子	アメリカザリガニ駆除	(鈴木真裕)	動物調査
中谷憲一	昆虫調査	NTT西日本10名 (こども3名)	アメリカザリガニ駆除 樹木調査準備
西田敏子	植物調査	(北川ちえこ)	植物調査
林耕太	植物調査	(環境局1名)	樹木調査準備
柘元慶子	樹木調査準備、実生林毎木調査		

いずれかに○→(○)裏面に図面、写真等を添付した ( )裏面なし ( )詳細はファイルで提出

## 湿地の状況 260110



北方向

## 給水中

周囲は冬枯れ状態

南方向



## 湿地の調査 260110



すくい採り

水生生物採集とアメリカザリガニ駆除



すくい採り

湿地の調査 260110

水生生物採集



このバットから分類する



ソーティング

湿地の調査 260110

アメリカザリガニ駆除



アメリカザリガニ

この大きな個体はメス



## 湿地の調査 260110

## アメリカザリガニの駆除



駆除のための  
網入れのみ 32個体

累積駆除数 1,233個体

2023年12月から2024年3月の期間は、池干しを実施した  
2025年4月からもんどでの捕獲も実施  
2025年12月\*は大阪産大演習時の駆除

## 湿地の生き物 260110



## 湿地の生き物 260110



## 湿地の生き物 260110

こげ茶色で線が目立つ



やや抹茶色を帯びる



## 湿地の生き物 260110



## 湿地の生き物 260110



## 湿地周囲の生き物 260110

水田B (常水田んぼ)

特定外来生物アゾラ・クリスタータ近縁 (交雑?) 種

(アカウキクサ属の在来種には絶滅危惧種もあり遺伝子攪乱のおそれ)



**水生シダ類**：空気中の窒素を固定する藍藻 (Anabaena azollae) と共生

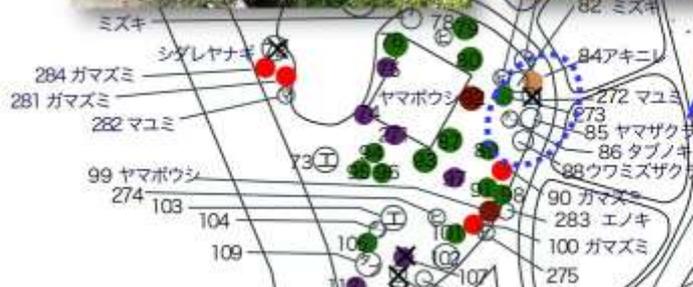
合ガモ農法に随伴する合ガモの餌飼料、マルチング用、緑肥用としての導入や水鳥の脚等への付着によって分布拡大 (環境省・農水省)

繁茂すると富栄養化を引き起こす可能性、水面を覆うことにより在来種との競合、水面下の水生生物への被陰の影響

## 観察園全樹木調査 260110

No.85ヤマザクラを確認

No.88ウヅミスザクラは消えたと思われる



2025年4月12日水路対岸のヤマザクラ咲く

